**技術研究会2020千葉大学　報告書の書き方**

○千葉 太郎A、 千葉 花子B

所属機関 部署等A、 所属機関 部署等B

1.はじめに

口頭発表、ポスター発表の別にかかわらず、報告書ファイルはPDF形式（サイズ4MB以下）、ページ数は2ページ以上5ページ以内と致します。各ページにはページ番号を記載しないでください。提出する原稿はWordファイルおよびPDFファイルとし、それぞれ4MB以下として下さい。

2.ページ設定

　用紙サイズはA4（縦長、横書き）、本文は2段組（2カラム）としてください。余白は上20mm、下20mm、左20mm、右20mmです。文字や図、表はカラーが使用できますが、モノクロプリントで出力したときにも区別できるように色使いに注意して下さい。

3.フォント

　フォントは以下の文字が使用できます。

・全角文字　MS 明朝、MS ゴシック

・半角文字　Times New Roman、Arial、Symbol

文字サイズについて制約を設けておりませんが、本文は10ポイントを推奨します．その他はこの「報告書の書き方」にのっとってお書き下さい。

4.文章、図、表について

句読点は和文の場合、全角で句点は「。」、読点は「、」とします。欧文の場合は、半角で句点は「. 」、読点は「, 」とします。数字は半角算用数字で表記します。

図、表は以下に示す例、 表1、 図1のように2段組みの片側1段を使って本文中に表示します。大きな図、表の場合は2段を横に抜いてページ幅いっぱいに表示することも可能です。図、表内でも数量は国際単位系を用い、たとえば時間については、 t (s) のように表記してください。

表 1　表の挿入例

|  |  |
| --- | --- |
| 運動学 | 設問番号 |
| 　 位置と速度の区別 | 19 |
| 　 加速度と速度の区別 | 20 |
| 　 等加速度による放物軌道 | 12、 14 |



図 1　図の挿入例

5.引用について

参考文献は予稿の最後にまとめて「参考文献」という見出しの下にまとめてください。本文中では肩付き添字で引用箇所を指示します。本文中に出てきた順に番号をつけます。 たとえば、英文ジャーナル1)、英文書籍2、3)、和文ジャーナル4、 5)、和文書籍6)などとなります。

参考文献

1）D. Hestenes, M. Wells and G. Swackhamer *Phys. Teacher* **30** (1992) 141-158.

2）L.C. McDermott and the Physics Education Group at the University of Washington *Physics by Inquiry: An Introduction to Physics and the Physical Sciences* (Volume 1)John Wiley & Sons (1995).

3）E. Redish *Teaching Physics with the Physics Suite* Wiley (2003) 21-30.

4） 塚本浩司、樋口幸江、加納誠　日本物理学会誌 **60** (2005) 294-297.

5）川勝博　大学の物理教育　**18** (2012) 130-132.

6） 板倉聖宣 『仮説実験授業のABC』 仮説社 (1977)．